

会 議 録

内 容：平成 26 年度軽井沢町ランドデザイン像作成に伴う会議（第 7 回/全 17 回）
個別協議 進士委員・安島委員

場 所：(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター会議室

日 時：平成 26 年 7 月 3 日（木）13 時 30 分～16 時 00 分

出席者：中村委員長、進士委員、安島委員、横島委員

軽井沢町（森、遠藤）

udc(護), 小野寺事務所(上條), アトリエ T-plus(南)

①進士委員、安島委員よりエリアデザインの提案についてご意見を頂いた。結果下記。

◆旧軽井沢について

- ・資料 6 右上の背後に愛宕山がある模型写真が旧軽井沢イメージの中心となるが、スケッチの構図をそろそろ決定する必要がある。（中村委員長）
- 資料 6 (2 頁) 1 枚目は軽井沢銀座通りで道路整備を含めた町並みの修景のイメージで、2 枚目はユニオンチャーチの教会広場前のイメージ、3 枚目は LRT 新設を含めて町並み修景のイメージを考えている。（上條）
- ・3 つとも角度は良いが、ディテールはどう表現するのか。（中村委員長）
- この模型写真の構図をベースに書き直す予定である。（上條）
- ・南地区以外は、まち並みのイメージを見せたい。「①旧軽井沢銀座通りの道路整備」は 1 軒 1 軒のイメージが伝わる様に、もう少し下からのアングル（人の目線）で書いて欲しい。（町／森室長）
- ・パブリックコメントに出てきたスケッチを意識して欲しい。そのスケッチよりもパワーがないと良くない。点景の人物についても、単に空間スケールを示すための人物ではなく、行為をしている事を強く意識して書いて欲しい。特に旧軽井沢は諏訪神社、ユニオンチャーチを中心とした「聖祝祭プラザ」をメインとしているので、現在行われているお祭り等も参考にしたい。（中村委員長）
- 花火大会は開催している。諏訪神社の参道には屋台等が出る。（町／森室長）
- ・次回にはディテールが分かる資料を提示して欲しい。（中村委員長）
- ・昨年全委員に集まって頂いた会議からの最大の変化は「軽井沢モダン」という言葉が新しく出てきた事である。この言葉は中村先生からのご提案を町長が一挙に開拓されたものであり、統一ワードとする事になった。議論の際に、その変化や集約について念頭に置いて頂ければと思う。（横島委員）
- 当初は「和モダン」という言葉であったが、もう少し広義として「軽井沢モダン」とした。ヴォーリスの時代から吉村順三の別荘まで日本のモダニズムの先端をリードしてきたものは現在でも継承されている。更に発地では宮本忠長さんが直売所の設計をする事になっており、風土性の高いモダニズムをコンセプトとしている。（中村委員長）
- ・小布施の様な感じなのか。（進士委員）
- 様々な想いがこもっている。（横島委員）

- 小布施よりもモダンなイメージがある。(中村委員長)
- ・「軽井沢モダン」の心は何か。軽井沢という言葉には、やはり別荘やリゾート地という洋風のイメージがある。(進士委員)
- 具体的には、地場産材の活用や背景の浅間山を活かす方法を用いてもらう等も考えている。発地市場(直売所)は満足している。(中村委員長)
- ・それに関しては大賛成だが、軽井沢モダンという言葉は、それだけでは足りない気がする。(進士委員)
- 古いもののモダンと現代における軽井沢の個性と未来における軽井沢の先進性を「モダン」という言葉で表現している。一言で表すとすれば、この様な所ではないかと考えている。言葉は前提であるが、先生方にはそれぞれ解釈をして頂ければと思っている。(横島委員)
- 高原リゾート性の楽しいイメージを持っている。(中村委員長)
- ・旧軽井沢は、それを典型的にやるべき場所であろう。(進士委員)
- 旧軽井沢と中軽井沢がモデルになる。(横島委員)
- ・旧軽井沢のどの部分で「軽井沢モダン」を表現するのか。(進士委員)
- まち並みの改修イメージを描く予定であり、その際に「軽井沢モダン」を表現する。(上條)
- ・旧軽井沢商店街のまち並みはバラックのイメージがあるが、自然発生的な良さもある。下手に改修をすると雰囲気壊れる。どの様に改修するかが重要となる。(進士委員)
- 見本となる素材は何軒か存在する。それを広げるイメージとなる。(中村委員長)
- ・建物の良さではなく、活動の良さ(商いを行い、観光客が来て賑わいがある)で持っている地区である。時間が経って出来た良さが、作り直す事で妙なものになる恐れがある。(進士委員)
- そこが難しい所だと思っている。所謂、まち並みのコードを作成する事が本当に良いかどうかは問題である。議論がある所であるが、問題提起はする必要があると考えている。(中村委員長)
- ・コードを作成するとつまらないまち並みとなる。江戸川区の古川を親水公園にした際に、まち並みは良くなかったが、まずは水を流し、植栽をしっかりと設計した。その結果、人が大勢来るようになり、地元の方が自主的にブロック塀は生垣化したりする活動に繋がった。地元は親水公園ができた事で盛り上がり、古川音頭という歌まで出来た。役所は景観審議会をつかって、やたらとガイドライン作成等でルール化をしたがる傾向にあるが、それは良くない方向である。今から作成するものは、第一ステージの景観行政が行っている事ではない、新しい取組みをよく検討する必要がある。(進士委員)
 - ・水路とLRTの間が空いているが、この区間はどうか。(進士委員)
- 浅間山を見通せる様に空間として抜く方向で検討している。(横島委員)
- ・LRTをここの中心まで持ってくることは出来ないのか。間の区間が中途半端な感じがする。軸性をどう出すのかも重要であるが、位置付けとしては良いが、デザイン上まだ不明瞭である。(進士委員)
- 実際は見えないが、愛宕山に向けて軸性を出したいと考えている。(中村委員長)
- ・ユニオンチャーチ前の区画を改変するのであれば、両側の道を中央1本にしても良いの

では。広場も図面上は一体に見えるが、今のままでは道路もあり、囲まれた広場空間になっていない。自然発生的な感じで、何をすべきなのか、デザインが中途半端である。良くなるという保証をしなければならない。（進士委員）

→現実を変えられる制約があり、できる範囲で何ができるかという混交案となっている。都市計画として、ある意味、臆病となっている事は確かである。しかし、出来ない事を初めから強引に入れる込む事も難しく、否定的な見解も出ている。（横島委員）

→事情は理解できるが、中途半端に感じる。例えば、片側だけ移転させる等で軸線をつくる事もあるのでは。私の見解だと、ユニオンチャーチ前の広場は明るくて都市的な空間で良いが、神社周辺の広場は、裏を森とし、奥という空間を創る方が良い。その様に出来れば、神社のある意味が出ると思う。しかし、神社の周辺も同じような明るい広場にしてしまうのは日本の鎮守という雰囲気は出ない。神社はある種独特の雰囲気を持つ事に意味がある。諏訪神社と神宮寺はその方向で強化し、両端に濃い所（磁場の様に押さえる所）をつくり、真ん中は明るくする等のメリハリをつけた方が良い。（進士委員）

・神宮寺は良いお寺である。脇に水も流れている。森を大きく示して、重しを付ける方向にしたい。（中村委員長）

→水で繋げる事は出来ないか。（進士委員）

・水量さえ確保できれば流せない事はない。（中村委員長）

→他の道との違いが必要である。ドイツの細い水路（ベッヒレ）の様に細くて浅い水路で良いので入れる事ができ、樹木を上手く配置すれば、差別化が出来ると思う。（進士委員）

・進士先生が言う様に、それが成功すれば、周辺住民の考え方も変わるのであろう。その効果も考える必要がある。（中村委員長）

→中村先生の当初案は、道を1本としていた。しかし、それを実施してしまうと、他に何も出来なくなるという事で、現地から猛烈な批判があつて妥協した経緯がある。出来る事で出来ない事を選別しては、何も出来なくなるので。出来なくても理想的な絵を入れる方向として進めているが、ここに関しては、特に行政側からの反論が強かった。（横島委員）

・ここは1軒1軒が分かってしまうので難しいのかもしれない。（進士委員）

→神社は奥深い空間とする方向で進める。水路を入れるのであれば、図面上にもはっきりと示す事とする。森と水は強調して見せる様にする。浅間山への参道も強調する。（中村委員長）

・安島先生から旧軽井沢の別荘地は歴史があるので、別荘の事を全面に出した方が良いとの意見を頂いている。浅間山への軸線を描く時には、別荘のディテールも気を付けて欲しい。（中村委員長）

→観光（街）は、住民と来訪者で成り立っている。しかし、旧軽井沢では、別荘住民と軽井沢町民がメインで観光客の位置づけは低い歴史があつたが、観光客が増加し、現在のレベルの街並みができている。現案ではLRT導入や観光会館前の整備等が行われているが、また観光客を呼び込む様なまちづくりを行うのか。観光客を考えたまちづくりはすべきだと思うが、これまでの話と矛盾している気がする。旧軽井沢は、軽井沢の中でも観光客の質が落ちている地区である。もう少し軽井沢のイメージを創ってきた人・要素

(別荘住民や軽井沢銀座の歴史等)を入れ込めないか。図面で表現する事は難しいかもしれないが、何かでまちの在り方が分かる様に表現できれば良い。反映夏期間だけ営業する店舗や店の横文字看板等は、軽井沢銀座の特長である。(安島委員)

→構想会議での基本方針は、観光客メインから落ち着いた保養地としての本来の姿に立ち戻る事である。その精神、考え方は変わっていない。(横島委員)

→銀座通りを整備したとしても「聖」と「俗」で言えば、「俗」の道となる。今ある「聖」の道をしっかりと軸として位置づけ、整備する方向で「聖」と「俗」の関係性が表現できればと思う。銀座通りの方は、当面は仕方ないと思っている。しかし、もう少し奥深い緑と水を前面に出し、「聖」の軸を強調する必要はある。デザイン上の課題はあるが、コンセプトとしては良いと考えている。(中村委員長)

→町長から「環境」というテーマが出てきている。LRT 導入は、車のない観光地のモデル事業として位置づけている。パーク&ライドで内側には車を入れない仕組みが良いかどうか分からないが、大量輸送機関ではなく、環境対応としての公共交通として理解頂ければと思う。(横島参与)

・その方向は良い。環境都市、環境リゾートを標榜するならば、それに見合った仕掛けがあれば更に良い。電気自動車、遊歩道ネットワーク等、環境的な配慮が組み込まれたものが図面上に表現できればと思っている。(安島委員)

→中村先生にまだご了承を頂いていないが、エリアデザインの中に「環境デザイン都市」というキャッチフレーズ入れてみてはどうかと考えている。再生可能エネルギーのモデル的切替えやペレットを使った薪ストーブの町等の環境の具体的な施策をきめ細かく入れ込んでみたい。LRT としなの鉄道を含めて浅野先生と議論が必要だが、50 年程度のスパンで LRT としなの鉄道等の公共交通を有機的に繋げ、地域公共交通機関として環境対応できるものに切替えていく方向を考えている。そのために LRT をどこに通すべきなのかの検討は行っている。(横島委員)

→表現としては、ディテールの絵(スケッチ)に人物の動きを入れて対応する事も考えられる。安島先生の思想については理解した。デザインの表現についてはお任せ頂ければと思う。(中村委員長)

◆新軽井沢について

・新軽井沢は駅前空間と矢ヶ崎公園の2つを拠点としている。駅前空間は大胆な提案としているが、思い切った提案であるならば、まだまだ他の新たな考えを取り入れる事もあり得る。どの様な思い切り方の提案が良いかについてご意見を頂きたい。新幹線駅前には軽井沢の玄関口として良い空間としたい。(中村委員長)

・大賀ホールもある事から、音楽の拠点になっていく可能性は十分にある。しかし、現在は大賀ホールのみであり、クリエイティブシティとして、もう少し芸術の音楽やアートがまちなかに組み込まれていく必要がある。音楽であれば、練習のための合宿施設や具体的には分からないが、野外でもまちの人が音楽を楽しめる施設等があれば良い。「芸術遊創プラザ」というキーワードも出ているので、もう少し芸術を感じられる空間とした方が良い。(安島委員)

→駅前の空間をモダンアートの創造性と一致した広場にできればとの意見も挙がってい

る。パブリックアートという提案もあるが、具体的な表現方法が難しい。文化庁長官が旗頭であるがアート関係者はデザイン博物館を昔から要望している。軽井沢は場所も良い所があり、提案を出来ない事もないが、もう一步検討が必要と思っている。(中村委員長)

- ・アート関係は詳しくないが、大丸有(東京)丸の内仲通りでは、銅像を設置してアート性を出している。少し古臭い感じはするが、その様な方法もある。金沢には駅前に「石川県立音楽堂」があり、オーケストラ・アンサンブル金沢の本拠地となっている。また金沢紡績のレンガ倉庫を活用した「市民芸術村」もあり、24時間年中無休の演劇・音楽・美術活動等の練習の場を創っている。他にコンサート会場もまちなかに点在している形になっている。この様に軽井沢も音楽をまちに取り入れる事で、芸術の雰囲気表現できるのではないか。(安島先生)

→最近室内だけでなく、まちなかで演劇を行うフェスティバルが世界中で行われている。例えば駅前に広い空間を確保し、その様なパフォーマンスを行う等の位置づけする事は可能である。形だけつくって、果たして説得力があるのかは自信がない。いずれにしても、基本的に駅前はアートの空間とする方向である。確かに大賀ホールだけでは厳しいので、もう一步踏み込んで検討したい。(中村委員長)

→芸術と言っても、絵画、音楽(洋楽、邦楽)、演劇(古典、現代)と様々な世界があり、この世界を全て横並びで取り入れる事は欲張りすぎでもあるし、あまり意味ある事ではない。軽井沢に一番適しているチャレンジポイントを絞った方が良い。しかし、まだ絞り切れていない状況である。(横島委員)

→それは「軽井沢モダン」ではないか。(進士委員)

- ・「軽井沢モダン」の一番良いアイテムとして何があるか。(横島委員)

→軽井沢の住んでいる方や軽井沢に好きで来ている方の中から生まれてくる方が自然である。(安島委員)

- ・軽井沢の別荘に住んでいるアーティストの方の名簿等はないのか。(進士委員)

→アーティストではないか、著名人の名簿はある。(横島委員)

→駅前はまだ少し大胆に空間を確保し、軽井沢モダンの庭園にする方向としたい。風土的な造園を施した庭園を設け、モダンアート等の展示場にしても良い。交通広場という考えは辞めて考えたい。(中村委員長)

- ・LRTのホームが駅の目の前まで来ている。この状態では交通広場そのものである。(進士委員)

→LRTそのものをアートとして見なす事もできる。(中村委員長)

- ・矢ヶ崎公園の池(護岸)はしまりが無い。このままの護岸で浅間山の軸線を通す事はナンセンスである。日本庭園は複雑な護岸であるが、ビスタはしっかりと通っている。公園内を改修するのであれば、ビスタを通す様な護岸につくり変えるべきである。軸線を通す事は、デザイン上でも思いっきり表現した方が良い。(進士委員)

- ・昔の手法の様に駐車場を集約するやり方は良くない。駐車場料金を採るなら別だが、バUFFERを取り入れた路上駐車場でも良い。(進士委員)

- ・空間の作り方が街区毎の単位でしか行われていない。現在の街区単位に拘りすぎていては良い空間は作れない。矢ヶ崎公園周辺は特にランドスケープの様にベースを緑とし

た風景をつくるやりの方が良い。(進士委員)

- ・民地も都市公園に入れる事ができるか。(中村委員)

→可能である。

- ・ロードサイドパークの考え方は良い。(横島委員)

- ・施設のボリュームが街区に沿ってある必要はない。大賀ホール以外は変えても良い。(進士委員)

→駅側の民地を矢ヶ崎公園内に入れ込んで駅前にもう少しスペースを創る等、もう少し大胆な公園的な地割計画も検討したい。(中村委員長)

- ・軽井沢町には7つの美術館がある。駅前には既存美術館からの出展や貸展示場も考えられる。矢ヶ崎公園には、アートを楽しみながら食事ができるレストランがあっても良い。(横島委員)

◆南地区(発地)について

- ・新しい軽井沢の最大の魅力が「スポーツ」、二つ目が「参加型農業」であり、その拠点を南地区につくりたい。そもそもバラバラだったスポーツ施設をまとめ直し、ジュニアを中心とした参加型スポーツを考えている。飲食等ができる場所を含め、朝から夜まで活動が展開できる場所として拠点性を高めたい。これについては異論がないと思うが、それとは別にもともと直売所の計画があった。中村先生のご意見で2つを繋げる方向となった。直売所を設計する宮本さんとも協議を行い調整を行った。直売所周辺と農地を一体的に捉える事、植物園移転と併せて里山を修景(ネイチャーミュージアム)する事を考えている。(横島委員)

- ・スポーツはアスリートが元気に楽しくする事が目的であり、スポーツ施設が豪華すぎる必要はない。里山エリアは何でもやって良い場所である。全体を里山エリアとして考え、その中にスポーツ施設があると捉える事もできる。運動公園の様にその場所だけで完成する形は良くない。完成時の見た目は良いが、維持管理もできなくなり、使われない施設となってしまう。この様に無駄な事はやらない方が良い。スポーツは「林内スポーツ」として考えても良い。

- ・現在、並木の種類が都会の街路樹と同じである。里山の風景とするならば、植え柵の等間隔で植える方法では良くない。こんもりとしたまとまった樹林と、日当たりが悪い場所では広々とした山の嶺が見える様なグラスランドが良い。現地で図面を描く様にした方が良い。(進士委員)

- ・里山として林内放牧はおすすめである。羊は気候的にも良く、羊毛等としての利用もできる。趣味でも利用できる。(進士委員)

→羊は良い。羊毛は寒い冬の繊維としても良い。(横島委員)

- ・この地区で別荘住民の時間消費型レジャーの資源をつくる事ができれば良い。樹木では、農学では特用作物というが、工芸に使えるホオノキやサクラ、繊維で使えるカラムシ等があれば良い。この様な事を考えれば、里山は人間の生活林である。放牧から特用作物、日当たりと排水が良ければ果樹園も良い。果樹のある風景はエディブル・ランドスケープと言って人気である。果樹の導入は色気を出すにも良い。(進士委員)

- ・サトウカエデはどうか。メイプルシロップが産業にならないか。(横島委員)

- カエデなら大体の種類は問題ない。趣味が産業になっても良い。南斜面には明るい陽樹の果樹を植え、その間に放牧地と牧草地や乗馬道を上手く配置できれば良い。牛を飼うのであればバターやチーズ等もできる。設備投資が必要と思われるが、農業の二次加工は家庭でやっていたものであり、決して難しい事ではない。それが楽しみになり、レジャーになれば良い。(進士委員)
- ・ジャムはどうか。軽井沢はジャムを販売している店が多い。家庭でもジャム作りの名人がいる様である。(横島委員)
- ジャムは簡単なので問題ない。人材活用にもなり、良いと思う。(進士委員)
- ・直売所の中で、つくる場所ができるのではないか。(中村委員長)
- 手作りものをつくる場所はある様である。(横島委員)
- ・ジャムの種類としては、ブルーベリー、ラズベリー等、何が良いか。ルバーブはどうか。(横島委員)
- 何でもジャムにはなる。(進士委員)
- ・ホースセラピーはどうか。(中村委員長)
- 動物による治療効果をねらったアニマルセラピーは一般的である。その他に園芸療法であるホーティカルセラピー等もある。ホースセラピーは、動物療法の中にあり、馬は大人しく、優しいため、馬の顔をなでたり、乗馬する事による療法である。カラマツ林の中等に乗馬コースをつくる事は、風景にもなり良い。道の舗装は間伐でいらなくなった枝をチップにして撒いておけば良いのでメンテナンスも簡単である。地区を展望できる場所をコースに入れ、その間にジャム工場や放牧地等の場所があれば良い。全て関連させて風景としてつくってはどうかと思う。(進士委員)
- ・園芸セラピーはどのようなものか。療法としてあるのか。(中村委員)
- 野菜や草花の園芸植物による療法である。アメリカの場合は資格があり、医者と同様である。農大のバイオセラピー学科では、アメリカの基準を用いて 2000 時間の実習で園芸療法士になれる。今までの農業は生産する事しか考えていなかったが、つくるプロセスそのものに意味があるという環境をつくるために取り入れた。(進士委員)
- ・軽井沢に園芸療養所をつくったら人は集まるか。(中村委員長)
- どの程度集まるかの保障はないが、病気の方は来ると思う。(進士委員)
- 軽井沢は夏の涼しさは抜群であるが、冬の寒さが厳しい。(横島委員)
- ・冬は、部屋の中でマキを燃やして火を見る事がセラピーとなる。(中村委員長)
- 日本焚火学会がある。焚火の火はセラピー効果がある。(進士委員)
- ・進士先生は日本馬術協会とは縁がないか。2020 年東京オリンピックの近代馬術競技の練習場がないそうであり、軽井沢に誘致したい。プリンスホテルのゴルフ場の一つに馬越ゴルフ場があり、そこを馬術協会に借りてもらえれば、そのまま馬事公苑になるのではないかと考えている。(横島委員)
- 私自身は縁がないが、大学の馬術関係者は縁があるのではないか。(進士委員)
- ・現在の様に馬を厩の中に閉じ込めておくのは良くない。LRT と一緒に馬車はないかと考えている。(中村委員長)
- 馬車も良い。(進士委員)
- LRT と同じ軌道上を走らせる鉄道馬車は面白い。(安島委員)

→軌道と併用できれば面白い。（横島委員）

- ・乗馬は是非取り入れて欲しい。北海道日高等は競馬馬で有名であり、20キロ程度のホーストレッキングがある。競馬で引退した馬が余生をおくる場所にもなっている。サイクリング等で併せてホーストレッキングも軽井沢のイメージに合う感じがする。（安島委員）

→北海道では冬のウィンタースポーツとして、ホーストレッキングが流行っている。夏も良いが冬も良い。（横島委員）

- ・軽井沢の昔の写真で、牧場から浅間山が見える写真がある。この様な歴史の風景の復活もここでできたらと思う。（安島委員）

→それが正に「軽井沢モダン」である。（横島委員）

- ・旧軽井沢はカラマツを植えすぎており、別荘地らしくない。（安島委員）

→混交林化する事は検討している。（横島委員）

- ・休耕田の利用には、二つの方法がある。一つは市民農園的な畑にする方法で、もう一つは、掘り込んで水を貯める方法（ウエットランドにする）である。そうすれば、野鳥は来るので、野鳥の宝庫にする事も考えられる。水面に山並みに移る等、良い風景にもなる。また、畑と里山が別々では良くないので、一体的に繋げる風景が必要である。斜面を利用した風景式ファームをつくる方が良い。（進士委員）

- ・藤巻町長は、発地の休耕地を食糧危機の安全保障とする考えである。今の様なアイデアや湿地帯なら、すぐ農地に戻す事が可能である。（中村委員長）

- ・居住だけの別荘ではなく、日常の中に農がある農園付き別荘があっても良い。（例えば、ダーチャ）むしろ、そうすべきであるので、この地区には農園付き別荘のビレッジをつくる方向で考えた方が良い。分譲かレンタルかの問題はあるが、そこそこの定住者が居る事も必要である。（進士委員）

- ・発地の集落の方々はどの様に考えているのか。別荘はないのか。（中村委員長）

→別荘はなく、昔からの農家である。担い手が居なくなっている事や政策で米が作れなくなったという理由でもあり、遊んでいる農地は多くなっている。（町／森室長）

- ・集落内に外部の人間が入る事はどうか。（中村委員長）

→やはり、閉鎖的ではあるかと思う。休耕田の方は、現在は農地法がかかっているため、建物は建てられない。（町／森室長）

- ・外部の人間は山側になると思う。農林業のスキルを持った方は地区内におり、先生になってもらえる。両方が交流できる拠点ができれば良い。（進士委員）

- ・大磯はリゾート地であるため、移り住んでいる方も多く、文化もある。そこで大磯市（いち）が開催されている。ルッコラやバジル、ズッキーニ等、面白い品がたくさん出品されている。軽井沢でも、軽井沢らしい品をまちで売ったり、調理するレストラン（シェフとのコラボ）等があったりと、農村部と中心部を結びつける仕掛けがあった方が良い。（安島委員）

→軽井沢モダンの中には「食」も入っている。レシピや食卓芸術も入れている。（横島委員）

- ・アメーラトマト等の農企業に進出してもらい、面白い野菜をつくる事もある。日本の種苗会社は国内では需要がないため、国外に向けて PR している。種がない訳ではないの

で、気の利いた種苗業者を誘致する事も考えられる。若いUターン者への農地提供等を総合化して場（畑）を与えれば可能である。本当の安心できる町は、食糧危機の時だけでなく、普段から作られている環境がある事だと思う。（進士委員）

- ・人々の趣向や価値観が変われば良くなる。この軽井沢構想では価値観を変えるきっかけにならなければいけない。現在の価値観を前提にしては、絵は描けない。（中村委員長）
- ・中村先生の報告書内に「教条主義的な自然保護の排斥」が出てくる。先程のカラマツ論であるが、教条主義的なものに敵対していなければいけないでしょうから、知見としてやらなければ描けない。（横島参与）
- ・「エコミュージアム」は古い。素直に「里山村」とかで良いのでは。（進士委員）
 - 「里山生態圏」はどうか。（中村委員長）
 - 環境教育上は良いが、生態圏は親しみがない。（進士委員）
 - 一般的には「里山自然園」といった所か。（横島委員）
 - 全体のネーミングは大事なので検討したい。（中村委員長）
- ・とにかく「農」も入れて表現したい。（中村委員長）
 - 農と林は連続させて欲しい。（進士委員）
- ・新しい農（農業用地）の集約化や新作食物の開発等を共同で事業化する様な組織はないか。（横島委員）
 - 今の農への産業は、既にある企業が多角化のために新しい事をやっているケースが多い。種苗会社は可能性があると思っている。質が高い。（進士委員）
- ・里山の牧場等を総合的に学校法人にして体験教育の場にする事も考えられる。（進士委員）
 - 中村先生が考えている「21世紀文化アカデミー」で実施する事も可能だが、できるリーダーがいない。（横島委員）
- ・日本近代以降の農業では各種学校や塾の様なものが結構ある。人材は居ると思う。（進士委員）
- ・軽井沢は学校制度までとる必要はないが、教育の場にはなるのではないかと思う。（中村委員長）
 - 自治体が衰退してきているので、その様なものが一つあれば輝くと思う。（進士委員）
- ・植物園を移設する際にはご協力頂きたい。（横島委員）
 - 移設を業者で行うと金額が高くなる。イベント化を検討した方が良い。（進士委員）

○配布資料

1. 自転車・LRT ネットワーク図
3. エリアデザイン5地区
3. 軽井沢モダン
4. エリアデザイン模型写真
5. 平成26年度軽井沢町ランドデザイン像作成工程表

以上